

(仮称)新九段生涯学習館基本構想検討会(第3回)

議事要旨

【開催概要】

日時:令和7年9月10日(水)午後2時00分～午後4時00分

場所:千代田区役所本庁舎4階402会議室

委員長: 国際基督教大学 教養学部 アーツ・サイエンス学科 教授 佐藤 千津

委員: 千代田区文化芸術協会 新井 巖 (欠席)

千代田区障害者共助会 清水 水尾

社会教育委員 庄司 由美子

千代田区文化連盟 野田 健一郎

千代田区青少年委員 村木 さをり

オブザーバー: 株式会社小学館集英社プロダクション(指定管理者) 2名

事務局: 地域振興部生涯学習・スポーツ課 4名

【次第】

1 開会

2 議題

(1)(仮称)新九段生涯学習館のめざす姿・基本方針

(2)(仮称)新九段生涯学習館の導入機能と規模

(3)今後の取り組みについて

(4)その他

3 事務連絡

今後の予定

4 閉会

【資料】

資料1 第3回(仮称)新九段生涯学習館基本構想検討会資料

資料2 第2回検討会 委員意見振り返り

【議事要旨】

1 開会

傍聴者が2名であることを確認。

2 議題

(1) (仮称)新九段生涯学習館のめざす姿・基本方針

<テーマ1 (仮称)新九段生涯学習館のめざす姿について>

- 事務局 (仮称)新九段生涯学習館のめざす姿・基本方針について資料1に基づき説明。
- ・検討会の流れの確認
 - ・第2回基本構想検討会の振り返り(概要)
 - ・めざす姿(案)、基本方針(案)
- A委員 「九段」の文言を入れるのか、「千代田」の文言を入れるのかについては、どちらでもよいと思うが、施設が九段にあることを分かりやすくするため、めざす姿か、施設の名称のいずれかに「九段」を含めることが望ましい。地名が入っていると最寄り駅や地域が把握しやすい。施設の名称に「九段」が入るのであれば、めざす姿には「千代田」を用いる案でも問題ない考える。
- B委員 九段生涯学習館という名称を千代田生涯学習館などに変更するようなことがあれば、施設名称に「千代田」が入ることになるので、同様の考え方ができる。
- 事務局 前回の検討会では、「生涯学習館」という言葉自体が分かりにくいとの意見があり、施設名称の見直しを検討すべきとの指摘があった。この取り扱いは今後検討することになるが、施設名称に必ずしも九段という地名が入るとは限らないため、めざす姿において「九段」を入れておくことも考えられる。
- ◎委員長 前回は「九段」でまとまっていたが、今回「千代田」案が提示されたのは、地域を限定しない案と比較するためのものと理解している。しかし、この地域は昼夜間人口差が大きく、「千代田」という行政区を用いると、住民のみを対象とする印象を与え、区外からも来てつながっていくという人の動きを制限してしまう可能性がある。一方、「九段」を基点とすることで、「ここから始まる」「ここからつながる」「ここから未来へ」という発想を示せ、むしろ地域を限定しない広がりを持たせることができると思う。そのため、九段を基点とする表現のほうが適切であるとの印象を持つ。
- C委員 「千代田区」というと特定のイメージが強い印象だが、「九段」はそれぞれの人が持つ思いやイメージがあり、むしろ広がりがあるのではないかと思う。
- B委員 「九段」を入れる案でよいと思う。
- D委員 「千代田」に変える必要性は感じない。ほかの施設との差別化を考えると、「九段生涯学習館」は公民館的な施設とは異なり、九段にあって多様な人が利用できる施設であることを示すべきである。「千代田から」よりも「九段から」として、明確に場所を示した方がよい。
- ◎委員長 皆様の意見を踏まえると、めざす姿は案①が適切であると思う。異議がないようなので、案①で決定することによいか。

○委員全員 異議なし

<テーマ2 (仮称)新九段生涯学習館の基本方針について>

●事務局 12 ページについて、前回の検討会で頂いた意見を基に反映した部分を補足で説明する。③'は「生涯を通じて」を追加し、「生涯学習」の要素を明記するとともに、縦のつながりやライフスタイルに応じた学習を表現した。④'は「学びや挑戦を生み出す」を新たに加え、九段ならではの取り組みや新しい挑戦の姿勢を基本方針に盛り込んだ。⑤'は、前回提示した①と⑤を統合したものである。

◎委員長 ⑤'については、前回から大きく変えたものではなく、2つの案を組み合わせた上で、整理したということなので、違和感のないものと考えてるが、この案でよいのか。

○委員全員 異議なし

◎委員長 「過去→現在→未来の縦のつながり」を示した新たな基本方針案についてはどうか。

○A委員 B 案の「世代を超えて知がつながる」は、知識だけを連想させ、座学のイメージが強いと感じる。「世代を超えて」という表現は良いが、「知」は運動など幅広い学びを含みにくい印象がある。

○A委員 A 案の「歴史と文化に根ざし」について、歴史や文化を象徴する何かを新九段生涯学習館に備える想定か。

●事務局 「歴史と文化に根ざし」については、前回の検討会でご意見のあった、歴史は千代田区の地域的特徴であるという点や、第1回検討会での教育と文化の視点が必要であるという意見を受け、採用した表現である。施設へどう反映するか具体的に検討しているものではなく、表現を見直すことも可能である。

○B委員 A 案が良いと考える。日本の中心である千代田区から文化を発信することを前面に打ち出し、歴史を「世代を超えて」つなぐという流れが適切だと感じる。

○C委員 シンプルで「学びが息づく場」という表現が良いと感じる。継承ではなく、時代を超えてみんなで一緒に進むイメージがあり、その場で同時に学び合う新しい言葉として魅力的だと思う。

○A委員 「学びが息づく」というのはいい言葉である。

○D委員 A 案が分かりやすく良いと思う。「学びが息づく」という表現が魅力的である。

●事務局 「学びが息づく」は、千代田区第3次基本構想の「都心の魅力にあふれ、文化と伝統が息づくまち千代田」を継承しているように感じる。千代田区は江戸城の歴史を持つ皇居がありながら、新たなものが革新的に進んでいく都心の魅力も併せ持つ。この標語は、昔ながらの風格を残しているという千代田区の特徴を示している。一方、「歴史と文化に根ざし」をどうするかというご意見があったため、この部分を B 案の「千代田区の歩みを学びに変え」と入れ替えるなど新しい表現も検討できる。

○A委員 歴史と文化に根ざすことが基本にあるなら、この表現を入れてもよいと考える。

○D委員 A 案でよいと思う。5 つの方針の 1 つという理解である。ほかの文言とのバランスもみる必要がある。

- ◎委員長 先ほど、めざす姿で「九段」を入れたので、基本方針に「千代田」を入れるというのはどうか。
- B委員 A 案の冒頭に「千代田の」を加え、「千代田の歴史と文化に根ざし、世代を超えて学びが息づく場をつくります」とするのはよいかもしれない。
- 事務局 委員の意見では A 案支持が多いため、A 案を軸に他の案の要素を組み合わせるなどして、次回提示する。
- (2) (仮称)新九段生涯学習館の導入機能と規模
- 事務局 (仮称)新九段生涯学習館の機能と規模について資料1に基づき説明。
- D委員 28 ページの和室について、40 m²の 2 部屋構成は良いが、水場の配置が気になる。現在は、水場は各部屋にあるが、和室(小)には床の間がなく不便との声がある。茶道利用を考えると、各部屋に床の間と水場があると望ましい。
- 事務局 床の間や水場などの詳細は来年度の基本計画で決定する予定である。資料に記載の図はあくまでイメージではあり、現段階では広さや機能の要望を中心に伺いたく、現時点で気づいた点があればぜひ共有いただきたい。
- D委員 和室(大)は 74 m²とかなり広い状況だ。
- オブザーバー 現状、和室(大)は約 31 畳である。
- D委員 31 畳はかなり広い。和室は、ヨガなど靴を脱ぐ運動系団体と利用が重なり、場所が取れないことがある。茶道利用では、広すぎるため、分割できると助かると感じるが、ヨガなどの団体にとっても広いものなのかどうか気になる。
- オブザーバー 40 m² 2 部屋の場合、部屋を連結できる仕様になると、大きな団体が利用する際に、仕切りを外して広く使えるため便利だと考える。現状も運動系の諸室に簡易畳を敷いて対応しているが、和室の雰囲気を求める声もあるため、ジョイント可能な構造が望ましい。
- D委員 部屋を連結できる仕様になると、風情が失われ、簡易な施設のようにになってしまう懸念がある。新施設では、ただ畳を敷くだけでなく、床の間や違い棚など和室らしい要素を残してほしい。
- オブザーバー 両方に和室らしさを残しつつ、中央の仕切りを外して一体利用できるよう、デザインや設計で工夫できると良い。
- D委員 音が出る活動は、部屋が離れていれば問題ないが、隣で舞台や楽器演奏をする団体があるとパーティーションでは防音が不十分。
- A委員 運動系のスペースが増えているが、これは生涯学習館全体で確保できる面積が広がるということか。
- 事務局 前回の意見を踏まえ、運動や音楽に対応できる空間が必要と判断し、利用率の高いレクホールや多目的室の不足を解消するため、まずは数を増やす提案をした。面積は会議室などを縮小して捻出しており、生涯学習館全体の規模が拡大したわけではなく、現状と同規模の中で利用率に応じて再配分している。
- ◎委員長 34 ページのギャラリーは 120 m²、36 ページのオープンな活動空間と談話・休憩・飲食は 2 部屋で 120 m²とあるが、どちらもロビーの一部として整備する方向

性が記載されている。これは、ギャラリーとオープンな活動空間等を合わせて交流エリアの合計が 240 m²となるのか、それともギャラリーとオープンな活動空間等は兼用となり、合計で 120 m²なのか。

●事務局

交流エリアの合計は 240 m²である。

前回の検討会でのご意見を踏まえ、九段ギャラリーはオープンな活動空間と機能を兼ねる案を検討している。展示は個室型にするか、ロビーに近い共有スペース型にするか、利用者の目にとまりやすい形を含めて意見をいただきたい。

◎委員長

展示のイメージはデザインや設計に関わるが、どんなふうに展示するかを踏まえ、人の目にとまる、人の動きがあるところに設置するにあたっては、展示スペースをしっかりと確保する必要がある。面積の確保が不十分だと、いろいろなものを展示できなくなるのではないかと心配している。

○B委員

展示部門の利用頻度はサークルの規模や作品数による。大規模サークルは部屋を埋められるが、小規模サークルだと部屋を埋められないため、使用頻度が低くなることから、ギャラリー統合の発想が出ていると思う。ただし、全体としては一定の展示スペースを確保すべきだと考える。

○A委員

ギャラリースペースは他用途に利用可能なのか。稼働率は高くないため、ギャラリーをメインとしつつ、未使用時に運動系や座学系で使える多目的スペースにできるなら、ある程度広さを確保してもよい。ただし、ギャラリー専用だと稼働率の低さが課題になる。

○B委員

ギャラリーの稼働率が低いのは、一部のサークルしか利用していないためだと思う。サークルは約 500 あるので、年 1 回の発表の場として全サークルに利用を促せばよい。大規模・小規模を問わず、発表の機会を設けることで活用が進むと考える。また、1 つのサークルが小規模であれば、5 つほどまとめて、それぞれにブースを設けて発表する場を作るなど、そうした考え方もあるのではないと思う。

○A委員

年 1 回など定期的にやるとしても、稼働率はレクホールなどより低くなると思う。必要な機能だとは思いますが、使っていない時間帯を有効活用できる代替案がないと難しいのではないかと。

○C委員

確かに、学習館に行った際、ギャラリーには誰もいないときがある。美術関係の企画のときに、子どもたちを集めて会場を使っていることがあったので、そうした企画ができる場であれば良い。

○D委員

ご提案は、皆が目にするスペースとして 120 m²を交流エリア兼ギャラリーとし、ギャラリー未使用時にはオープンスペースとして活用するというものと理解している。焦点をどこに当てるかで使い方は変わるが、いろいろなサークルに使ってほしい。ただ、使ってもらうだけでなく、皆の目に触れることが重要であり、そのためにエントランスの交流スペースと一体化させる提案だと認識している。

イベント会場として使うのも良い。

○B委員

今 1 階に展示されている見本のようなものを空いている期間に置き、そこで実際に物を作ったり、指導や体験の機会を設けると良いと思う。一方で、あまり小さく

してしまうと、大きい団体が困ると思う。120 m²程度のスペースを確保しつつ、交流スペースと一体化する案自体には賛成である。

- ◎委員長： 机や椅子がぎっしり配置されると、立体的な作品などをどこに展示するのか課題になる。壁に絵を掛けるだけではなく、さまざまな作品を展示できるよう、デッドスペースをうまく活用できればと考えている。
- 事務局 ギャラリーとオープンスペースは、テーブルや椅子の種類や配置によってレイアウトが大きく変わるため、現時点ではイメージが湧きにくいと思う。重要なのは、それぞれの機能を持たせつつ、皆さんの目に触れやすく、作品や展示を今まで以上に見てもらえる場にする。より多くの人に見てもらえる配置を検討しながらレイアウトを考えていきたい。
- C委員 カフェスペースに展示物を組み合わせることで、展示を楽しみながら過ごせる場となり、カフェスペース自体の価値も高まると思う。展示物に合わせてカフェスペースの配置を工夫し、展示がより引き立ちながら楽しめるようなスペースも考えられる。
- ◎委員長 活動エリアと交流エリアの分けは、あまり明確に分けすぎないことも考えられる。
- A委員 32 ページの運動系スペースについて、天井の高さはどの程度か、レクリエーションホールと同じくらいかを確認したい。
- また、運動音楽室(大・小)が連結できると、バスケットやバレーなど今のレクリエーション室ではできないスポーツもできるようになり、汎用性が広がるのではないかな。現状ではバドミントン程度しか球技はできないが、広い空間があればバスケットやバレー、フットサルなども可能であり、需要もあると考える。ただし、仕切り部分の安全性には配慮が必要。
- 事務局 まだ再開発の組合から正式な高さは示されていないが、図面を見る限りでは同程度になるのではないかな。
- 施設のレイアウトはパズルのように組み合わせる必要があるが、運動音楽室(大)を2つ並べて壁を可動式にすれば、大空間を確保できる。そのため、大きな空間での利用ニーズが強ければ、パーティーションにすることもあり得る。
- バスケットなどの球技を行う場合は音の問題が出るため、隣室や下階への影響を考慮する必要がある。また、壁の強度もどの程度確保するか検討が必要で、球技系を取り入れるならこうした課題も出てくる。
- A委員 29、30 ページの実習室・作業室は縮小されるのか。また、電気炉のスペースは少し大きくなるのか。現状の稼働率は低い。
- D委員 創作室と電気炉室を分けて、創作室のみを使う人が安価に利用できるようにとの提案なのか。
- 事務局 創作室と準備室は一体で考えている。乾燥スペースが不足しているという意見を踏まえ、全体を縮小する場合でも、その部分は拡充できるようにする必要があると考え、分けて記載している。全体のスペースとしては縮小しているため利用料金

が安くなる可能性は考えられる。

- オブザーバー 座学系の学習室と大会議室について、現状ちよだ生涯学習カレッジは定員 30 名で第 1 学習室を使用しているが、グループワークで島を作ると手狭である。
- 事務局 新しい会議室は横並びに配置される見込みで、大会議室と中会議室をパーティションで仕切れば、必要に応じて広く使える。利用団体の規模に応じて柔軟に対応できるようにしたい。個室として広い部屋が必要なのか、それともパーティションで間仕切って広くできればよいのか。
- オブザーバー 座学利用では大きな音は出ないが、楽器を使う団体が多目的室や音楽室、レクリエーション室を取れない場合に大会議室を使い、音漏れするケースがあった。今回の計画で音楽系の諸室が整理されるため、その場合は心配ないかと思うが、座学系の講座ではマイクを使うため音漏れが懸念される。
- ◎委員長 前回ご意見があった自習可能エリア、35 ページとか 22 ページとか、自習可能なスペース、そこをご説明を願う。
- 事務局 アンケートでは、オープンスペースや打ち合わせ場所、自習室を求める意見があった一方で、前回の検討会では、自習室や図書室機能は不要、また単純なフリースペースは管理が難しいとの意見があった。これらを総合的に勘案の上、打ち合わせや打合せ、自習も可能なオープンな活動空間を設ける提案である。また、談話・休憩・飲食機能を持つスペースも別途設ける。ただし、管理が難しいとのご意見に関しては、オープンスペースを予約制にするなど管理方法の工夫を今後検討する必要がある。
- ◎委員長 時間帯で分けるなどの工夫は可能だと思う。最近はアクティブラーニングとして学生同士で課題に取り組む機会が増えており、学びのスペースの需要がある。また、異なる人たちが同じ場所を使う中で、ルールやマナーを学ぶことも重要であり、その意味では排除する必要はないと考える。
- C委員 前回の話でも出たが、授乳などに対応できるスペースが必要。利用者にはお子さんを同伴する若い世代もいるため、その点を考慮する必要があるがどのように考えているか。
- 事務局 活動や交流の生涯学習機能を中心に記載したため、今回の資料には明記していないが、更衣室、トイレ、シャワー等の機能と同様に整備が必要と認識している。
- D委員 託児スペースはこれまでどおり和室を使うのか。ベビーベッドを設けるかなど検討が必要。
- C委員 狭くてもよいので、ベビーベッド付きの授乳室のような個室を設け、子どもが泣いていても安心して過ごせる空間が必要。また、気持ちを落ち着けられる小さな個室があると、災害時など様々な場面で障害のある方にとってありがたいと考える。中心施設としてこうした小さな安心スペースを設けることで、若い世代や幅広い利用者にとって使いやすくなる。
- ◎委員長 その他、大きな舞台付きの部屋は、音楽だけでなく演劇や芝居での活用も想定できる。

本日の意見を踏まえ、委員長と事務局で整理をしていく。

(3)今後の取り組みについて

- 事務局 今後の取り組みについて説明。
- A委員 10月16日のワークショップは、どのように声掛けをしているのか。登録サークルへの郵送などは行っていないのか確認したい。
- 事務局 10月16日のワークショップについては、チラシを作成し、九段生涯学習館1階で掲示・配架して周知している。郵送による案内は行わずに主に来館者に対して直接声掛けを行い、参加を募っている。
各部屋の機能や規模の方向性がある程度決まってきたため、その内容を案内する予定。また、実際に利用している方から「使いづらい点」などの意見を早めに収集し、共有する。来年度の基本計画でゾーニングを検討する際に、こうした要望を反映し、より使いやすい部屋づくりを目指すことを目的にワークショップを開催する。
- A委員 何人くらい参加予定か、先着順なのか、現在の申し込み状況はどうなっているのかを確認したい。
- 事務局 定員は30名で、超えた場合は抽選。申込期限は9月21日までで、現在はまだ申込数は少ない。必要に応じて追加募集も検討している。
- D委員 検討会委員の参加の必要性はあるのか。
- 事務局 ワークショップで頂いた意見はフィードバックするため、委員の方にお越しいただく必要はないと考えている。

(4)その他

- ◎委員長 検討会全般で質問、意見がないことを確認。

3 事務連絡

- 事務局 次回の開催は11月上旬を予定しており、今後日程調整を行う。

4 閉会

以上